

「名作文庫」通信



特集「文豪の怪談」

2016年

夏号

## 新しく入った本

「名作文庫」に新しく入った本をご紹介します。以前、ご紹介できなかった本も含まれております。一部、保存庫に所蔵されているものもあります。1階カウンターにてご請求ください。



### チップス先生さようなら

【著】ジェームズ・ヒルトン 【訳】白石 朗  
【刊】新潮文庫 【資料番号】1012145205

回想にふけるチップス先生の胸に、ブルックフィールド校での楽しい思い出が去来する。学生たちとの愉快的な毎日、亡き妻、大戦当時の緊迫した明け暮れ…。老教師と、イギリスのパブリック・スクールの生活を描いた不朽の名作。



### 二都物語 上

【著】ディケンズ 【訳】池 央耿  
【刊】光文社古典新約文庫 【資料番号】1012148464

スパイ容疑で逮捕されたフランス亡命貴族のロンドンでの裁判。とある医師の娘が証人となり、弁護士の奇策もあって無罪となるが…。一方パリの居酒屋では血腥い計画が着々と練られ…。ロンドンとパリ二つの都市を舞台に、時代と革命に翻弄される愛と信念の物語。



### 暦物語

【著】ブレヒト 【訳】丘沢 静也  
【刊】光文社古典新約文庫 【資料番号】1012146377

本来は農民や職人むけのおもしろくてためになる実用志向の読み物だった「暦物語」。“下から目線”のちょっといい話が満載の短編集を、ブレヒトの魅力が再発見できる新訳で紹介。



### 奉教人の死

【著】芥川 龍之介 【刊】新潮文庫  
【資料番号】1012203624

文禄・慶長ごろの口語文体にならったスタイルで、若く美しく信仰篤い切支丹奉教人の、哀しいが感動的な終焉を格調高く綴った表題作をはじめ、先駆的作品と名高い“切支丹もの”全11編を収録する。



### 土

【著】長塚 節 【刊】新潮文庫  
【資料番号】1012204671

茨城県地方の貧農勤次一家を中心に、小作農の貧しさとそれに由来する貪欲、狡猾、利己心、また彼らをとりにかこむ自然の風物、年中行事などをリアルな筆致で克明に描いた、農民文学の記念碑的名作。



### 海辺の光景

【著】安岡 章太郎 【刊】新潮文庫  
【資料番号】1012204689

精神を病み、海辺の病院に入院している母を、信太郎は父と見舞う。医者や看護人の対応にとまどいつつ過ごす九日間。戦後の窮乏の思い出と母の死を虚無的な心象風景に重ね合わせ、戦後最高の文学的達成といわれる表題作ほか全七編の小説集。



### 路傍の石

【著】山本 有三 【刊】新潮文庫  
【資料番号】1012204713

極貧の家に生れた愛川吾一は、幼くして奉公に出される。母親の死を期に上京した彼は、苦勞の末文選工となる。厳しい境遇におかれながらも純真さを失わず、自立した人間になろうと努力する吾一少年のひたむきな姿を描く。本書には第六章として青年期を収録。

## 文豪の怪談

炎暑の夏には怪談を一

文豪たちも沢山の美しく怪しい物語を描いています。眠れない夜のおともに、時にはぞっとするような怪奇の世界を堪能しませんか？名作文庫に収蔵されている作品をご紹介します。



### ねじの回転/デイジー・ミラー

【著】ヘンリー・ジェイムズ 【訳】行方 昭夫

【刊】岩波文庫【資料番号】1011800396

とある館で行われたクリスマス・イヴの怪談会。そこで語られた幽霊話の顛末は…。正気と狂気、虚実の錯綜する幽霊譚「ねじの回転」。アメリカ文学を代表する幽霊物語として、映画・ドラマ・オペラにもなった名作。著者の代表作「デイジー・ミラー」も収録。



### ラヴクラフト全集 別巻 上・下

【著】H・P・ラヴクラフト 【訳】大瀧 啓裕

【刊】創元推理文庫【資料番号】1011538988/1011538996

クトゥルー神話の創始者として、今も読み継がれる怪奇作家ラヴクラフト。別巻では彼の添削・補作になる作品を収録。上巻には、「最愛の死者」「メドゥサの髪」ほか12編。下巻には、「永劫より」「エリュクスの壁のなかで」「夜の海」ほか全11編を収録。



### 可愛い黒い幽霊

【著】宮沢 賢治 【刊】平凡社ライブラリー

【資料番号】1012090302

「銀河鉄道の夜」「風の又三郎」など、詩人であり童話作家として名高い宮沢賢治の怪談集。東北に伝わる怪異譚、物の怪や精霊の跳梁する山野の怪が、独特の雰囲気と詩で語られる。日常から非日常へ、幻視と叙情がまじりあう小品集。

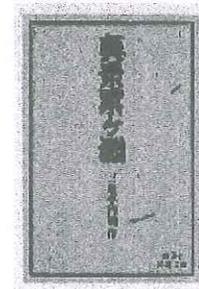


### 幻想怪奇短編集

【著】濑澤 龍彦 【刊】河出文庫

【資料番号】1011958095

怪奇・恐怖・神秘を主題に書かれた珠玉の濑澤訳作品群をオリジナル編集。トロワイヤ「共同墓地」、サド「呪縛の塔」、ネルヴァル「緑色の怪物」など、全8篇を収録する。



### 真景累ヶ淵

【著】三遊亭 円朝

【刊】岩波文庫【資料番号】1011945126

「牡丹燈籠」と並ぶ円朝の代表作。針医兼高利貸の皆川宗悦が酒乱の旗本深見新左衛門に殺されることに始まる、因縁が複雑に絡み合う怪談話。妻を七人までも呪い殺すと新吉を恨んだ豊志賀。前世の因縁か、鎌の呪いか果てしなく続く血族同士の殺し合いの結末は？



### 秘書綺譚

【著】ブラックウッド 【訳】南條 竹則

【刊】光文社古典新約文庫【資料番号】1011871397

イギリスを代表する怪奇小説家の短篇集。古典的幽霊譚「空家」「約束」。吸血鬼と千里眼がモチーフの「転移」。怪しい妖精話「小鬼のコレクション」。詩的幻想の結晶「野火」。主人公ジム・ショートハウス物を全篇収録。



### 室生犀星集 童子 文豪怪談傑作選

【著】室生 犀星 【編】東 雅夫

【刊】ちくま文庫【資料番号】1011640305

早世した愛児との死後の交流を哀切に描いた一連の幽霊譚、故郷金沢の天狗や水妖の話、モダン都市浅草の闇に明滅する電気娘の妖異など、不世出の詩人作家・犀星が遺した怪異譚の傑作を集大成。

## あの人、あの一言。

名作に登場する忘れがたい人物やセリフ、そして文章をピックアップ。  
心の糧に、座右の銘に、雑談の種に。

「私は、われわれが既に失いつつある  
陰翳の世界を、せめて文学の領域へでも  
呼び返してみたい。」

谷崎 潤一郎「陰翳礼讃」新潮文庫

「物と物の間にできる陰にこそ、美がある」  
日本的な物の美を求める谷崎独自の世界観。  
仄暗い夜の灯を想い、その闇と灯影が生み出す古来日本の美。  
この一文は谷崎文学の描く美の世界、彼の想う美意識の現れであり、  
その創作活動への決意でもあると思われるのです。

「名作文庫」で読める谷崎 潤一郎の作品

鍵・癩癩老人日記【刊】新潮文庫 【資料番号】1012013346

卍(まんじ)【刊】中公文庫 【資料番号】1011550991

蓼食う虫【刊】新潮文庫 【資料番号】1010151361

刺青・秘密【刊】新潮文庫【資料番号】1011946983

陰翳礼讃【刊】中公文庫【資料番号】1011901640

美食倶楽部【刊】ちくま文庫 【資料番号】1011814017

谷崎 潤一郎(たにざき じゅんいちろう)

1886年(明治19年)7月24日~1965年(昭和40年)7月30日  
東京府東京市日本橋区出身。

明治末期から第二次世界大戦後の昭和中期まで、戦中・戦後の一時期を除き終生旺盛な執筆活動を続け、国内外でその作品の芸術性が高い評価を得た。現在においても近代日本文学を代表する小説家の一人として、評価は非常に高い。

第2次「新思潮」発表の「刺青(しせい)」が永井荷風に激賞され、耽美(たんび)派作家として文壇に登場しました。初期は耽美主義の一派とされ、過剰なほどの女性愛を語られることが少なくありませんが、その作風や題材、文体・表現は生涯にわたって様々に変遷しました。

作風は多岐にわたり、それぞれの作品に合わせて漢語や雅語から俗語・方言までを使いこなす端麗さを備え、作品ごとに語り口も変化する細やかさを持ちます。『痴人の愛』『春琴抄』『細雪』など、情痴や時代風俗などのテーマを扱う通俗性と、文体や形式における芸術性を高いレベルで融和させた純文学の秀作によって世評高く、「文豪」「大谷崎」と称されました。その一方、今日のミステリー・サスペンスの先駆的作品、活劇的な歴史小説、口伝・説話調の幻想譚など娯楽的なジャンルにおいても多く佳作を残しました。

昭和24年文化勲章受章。

お詫びと訂正

前号「名作文庫 2016年春号」特集において森鴎外の生年を1892年と掲載いたしました  
が、正しくは1862年でした。  
お詫びして訂正いたします。

刺青・秘密

谷崎 潤一郎



## いまこそ教養、「名作文庫」。

下井草図書館だけにある特別な本棚、「名作文庫」。

一度は読んでおきたい古今東西の名著名作を  
ハンディなサイズの文庫版・新書版で集めた本棚です。  
同じ作者の同じ作品がいろいろな本でそろっているの  
で、1冊ごとに違う解説、違う注釈、違う翻訳に  
触れることができます。

題名だけしか聞いたことなかったあの作品、  
いまこそ手にとってご覧になりませんか？

よりディープに楽しみたいあなたには

### 『名作文庫 蔵書紹介』『いまこそ名作！読書会』

実は「名作文庫」の一部は保存庫にしまわれています。

でも『名作文庫 蔵書紹介』を見れば大丈夫！

保存庫の本のこともバッチリ載っています。

読みおわって熱い感動を誰かに語りたいたい…と思ったら、  
『いまこそ名作！読書会』にその思いを投稿しましょう！  
投稿レビューは常時公開！同じ思いの誰かがいるかも。

季刊「名作文庫」通信

3・6・9・12月発行

杉並区立下井草図書館